

〔本朝食鑑柔滑〕薯蕷

和城河丹江紀諸州最好、奥之南部、野之二荒、駿之富士根、甲之郡内、武之八王練間等處皆佳、京師江都市上惟肥厚者足作蔬矣。

〔奥羽觀蹟聞老志庸貢土產〕薯蕷 俗謂之山薯、以出于名取郡爲佳。

〔延喜式大膳三十三〕諸國貢進菓子

越前國（中略）薯蕷子二捧、

〔出雲風土記意字郡〕凡諸山野所在草木、略中薯蕷。

〔本草和名二十〕本草外藥七十種、薯蕷子此薯蕷子在藥和名奴加古。

〔倭名類聚抄十七〕薯蕷子 拾遺本草云、薯蕷子和名沼薯蕷子也。

〔伊呂波字類抄〕薯蕷子薯蕷子也 薯蕷子同

〔本朝食鑑柔滑〕薯蕷

薯蕷子源順曰、和名沼加古、必大平野、按、今世稱無加古、即山藥、藤上結子者也、長圓不一、皮黃或青、或黃青紫、藕雜色、小癭多出、亦有肉白、煮熟、作果食、味似山藥、氣味主治與山藥同、尤爲小兒之弄。

〔物類稱呼生植〕薯蕷子ぬかご 相州にてくろめと云、常陸にていもしが子といふ、肥前唐津にて

ばんごといふ、常陸の國にていふいもしがこは、いもがこにして、しは助字也、平忠盛のいもがこ

ははふほどにこそなりにけれとありしも、此事とかや、故事こゝに略す。

〔倭訓栞奴編十四〕ぬかご 倭名抄に薯蕷子を訓せり、糠子の義、ちひさきをいふなるべし、大臣大

饗にも用ひらる、事、江家次第に見えたり、今むかごといへり、伊豫にてめかごといふ、略下

〔重修本草綱目啓蒙柔滑〕薯蕷子 ヌカゴ古名薩州 ムカゴ豫州 マカゴ石州 ガコ筑前

クハンゴ同上 カゴモ防州 カグモ長州 イモカゴ三州 イモシカゴ常州 イモゴ佐渡

クロメ相州 パンコ肥前 中略